

# 令和5年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	壮志会	
事 業 名	地方議員研修会主催 新人議員のための 質問・財政基礎研修	
事 業 区 分	① 研究研修	② 調査

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

地方議員研究会が主催する「新人議員のための質問・財政基礎研修」に参加し、今後の議員として活動に生かすための質問力向上を目指し、質問を行うための事前活動、質問の方法を学ぶ。

## 2 実施概要

実施日時	主催	地方議員研究会
令和5年5月8日(月) 10:30~16:00	会場	東京都千代田区有楽町 リファレンス新有楽町ビル F2

報  
告  
内  
容

### 1 講演

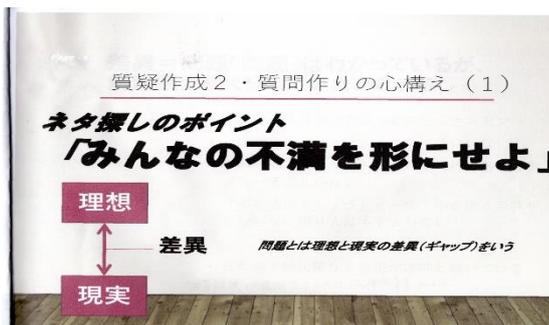
題名：「誰にも教えたくない極意 みんなが唸る質問の作り方  
絶対的質問力」

講師：村山祥栄 京都市議会議員・大正大学地域構想研究所客員教授  
元京都産業大学法学部講師

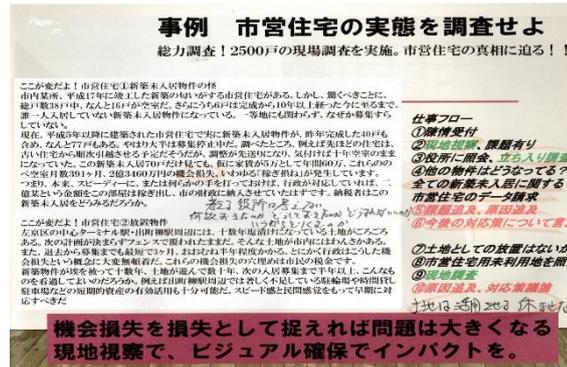
### 2 講義

#### ◎質疑の作り方

- ① 一般質問のポイント。大局感のある質問、市民・議員・当局へ周知したい内容の質問、当局を大きく揺さぶりたい質問
- ② 委員会質問のポイント。一般質問に適さないテーマ、身近な課題、緊急性の高い課題、「ラリーが最適な質疑」
- ③ 議会によって違う。委員会質問は無制限
- ④ ネタ探しのポイントと「みんなの不満を形にせよ」



- ⑤ 差異＝問題（課題）はわかっているが、解決策が全く分かっていないことが多い。  
政策解決（問題解決）になっている補助事業なのか見極める。
- ⑥ みんなの不満を形にする。市民は何に満たされていないのか、満足度を上げることで投票率が上がる。不満を満足に
- ⑦ ネタ探しのポイント「トレンドを掴め」



- (1) したい質問より、聞きたい質問について時流を掴んで質問する。今の問題をしっかり考える。市民も関心あるものは、ネットで検索されるので毎日チェックする。
- (2) 時流を読む。時代はどこへ進むのか、トレンドは早く掴み、いち早く提言すること
- ⑧ ネタを探そう
  - (1) ベストプラクティスを使う。他でやっていることをまねる。政策をまねる「我が街に取り入れる」先見の目を養う。
  - (2) 常日頃からネタをストック。新聞の切り抜きや雑誌の切り抜きをしておく。大事に取っておくのではなく、雑でよい。新書、オンライン記事、雑誌の特集など気になった本は乱読したほうが良い。
  - (4) 専門家の視点の活用。
  - (5) 陳情、市民との対話。現場での気づき。
  - (6) 職員との対話。ここから始まると言ってもよい。
  - (7) 議案説明から質問へ  
政策意図は祖の施策で本当に果たせるのか？  
費用対効果は見込めるのか？  
費用の妥当性はあるのか？ ← 他の自治体を調査し民間も調査  
施策の欠点（役所は把握しているのか）公平性、しわ寄せなど  
実行のプロセスは妥当かどうか？
  - (8) 過去の質問を練り直す

ま  
と  
め

⑨ ゴールを決める

(1) 質問を作る際、重要なのはゴール

「どうするのですか？」ではなく、「こうしたい、こうすべき」提案型で。  
こうすべきだと思う、なぜならこうだから（問題をしっかりと調査しているから）こうすべきだと思う

(2) 理想を持たない質問は無意味、無責任

(3) 調査の前に仮定、結論を。

⑩ 質疑準備における注意点

(1) 準備は入念に時間をかけて。事前調査を怠るな。

(2) 年に一本は大掛かりな、マスコミが飛びつくような、ネタを仕掛けろ（時期は  
予算・決算議会に合わせろ）

(3) 一度きりで終わらせない

(4) 質疑とは人の時間を奪うこと。公共の時間を奪う価値のない質問はご法度。

(5) 安易な妥協はするな。痕跡を残すことが議会だ。（議事録に残す必要のないものは水面下でよい）

**政策通で、かつ選挙に強い議員になる**

**周りの議員から一目置かれる質疑を**

**作る**

**議員活動の広報力 up の手法**

**まずは議会No. 1 を目指せ**

**議員たるもの語り草になる伝説を作るべし**

3 まとめ

- ・ 議員にとって質問力をつけることは必要不可欠な事である。質問の仕方により、行政側の関心を向け、市民の要望に応えることができる。議員は、地域の声を聴くことが大事であり、その声を形にしていかなければならない。
- ・ 質問をするだけであれば、役所の窓口だけで済むこともある。議員からの一つの質問に答えることは、行政側からしても大変な労力となっている。しっかりと、この質問が市の発展、市民のためとなっているのか精査をすることが必要となる。
- ・ 問題を見つけるため大切なことは、「調査」。しっかりとこの質問が事実とあっているのかを調査することが大事。調査をもとに、現在の施策でよいのか、改善が必要なのか課題を取り上げていくで行政側の対応が進んでいくため努力を傾注したい。